

# J R 登別駅周辺コミュニティバス等調査事業業務の業務報告

## 1 業務名

JR 登別駅周辺コミュニティバス等調査事業業務委託

## 2 業務の目的

本業務は、アイヌ政策推進交付金を活用し、アイヌ高齢者をはじめとした交通弱者対策や J R 登別駅を利用する観光客等と登別地区に所在するアイヌ関連施設等に誘導し、アイヌ文化に触れる機会を創出するため、地域公共交通のあり方について調査、検討を行い、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現すること。

## 3 業務内容

### (1) 地域交通の現況に関する調査

- ・本市全体において、アイヌ関連施設及び生活関連施設についての利用状況等を調査する。
- ・アイヌ高齢者の移動環境を整備するため、本市全体において高齢者等の交通弱者にかかわる情報を地図上に示すとともに、データベースとして年齢・性別・運転免許保有状況等の個人属性について整理する。
- ・JCHO 登別病院やウポポイ開設に伴う地域公共交通への影響調査を実施する。

### (2) 地域公共交通にかかわるヒアリング調査等

- ・バス路線の維持や今後の新規路線等の考え方にかかわる実態調査
- ・タクシー事業の輸送実態や今後の検討事項についての実態調査
- ・病院送迎バス、観光施設の送迎バスの実態把握
- ・アイヌ関連施設のアクセスにかかわる移動実態やニーズの把握

### (3) 住民移動ニーズにかかわるアンケート調査 (2,000 世帯を対象)

- ・市民の生活移動 (買い物・医療・私用等) についての把握
- ・新たな地域公共交通 (コミュニティバス・デマンドバス等) の必要性についての把握

### (4) 地域公共交通のあり方の検討

- ・新たな地域公共交通 (アイヌ関連施設へのアクセス含む) のあり方の検討
- ・J R 登別駅周辺における生活交通・観光交通の融合による効果的な運行計画の検討
- ・本市全体における地域公共交通体系の検討
- ・登別市情報発信拠点施設を中心とした新しい公共交通網の検討

## 4 成果の概要

### (1) 新たな地域公共交通のあり方

#### 1) 登別市における地域公共交通の課題

登別市における地域公共交通は概ね鉄道事業者1社、バス事業者1社、タクシー事業者2社に支えられており、そのほか福祉バスやスクールバスが運行している。また、病院・観光施設等については送迎バスを出しているケースも多くなっている。

このように多様な交通がそれぞれの目的で運行しており、効率的な運行とはなっていないことが現状である。例えば、路線バスのルート上に施設の無料送迎バスが運行しており、無料送迎バスは施設が人件費や車両の維持費がかかっており、バス事業者は利用者が減っている。連携・協働による効率的で効果的な事業展開を検討する必要がある。

特に運転手不足によってバス路線の減便が起こっている状況であるため、利用者の少ない路線は優先的に減便・廃止の対象となることが懸念される。地域の生活の足を確保するためにも、路線バス利用者数の確保に取り組む必要がある。

#### 2) 登別市における地域公共交通体系

##### ①既存バス路線の有効活用

既存の医療施設への送迎バスについて病院にヒアリングした結果、人手や車両更新の課題があり、維持することが難しくなりつつある病院もあることが明らかとなった。送迎バスから路線バスへの転換を行ない、施設利用者に対しては運賃を無料にするなどの方法が考えられる。

観光施設等の送迎バスを運行している事業者に関しては全て共通して、路線バスへの転換について検討することにより、事業者の経費削減とバス事業者の利用者の増加が期待される。

また、観光需要が高い路線については医療施設への乗り入れが難しいといった問題を有しているが、バス路線の全ての便を医療施設に乗り入れるのではなく、需要の多い時間帯のみ乗り入れるなどの方法によって移動の足を確保することも考えられる。

##### ②新たな公共交通の検討

路線バスが運行していない地域に対しては、コミュニティバスやデマンドバス等の導入が考えられるが、登別市では観光需要が高く、交通事業者は新たな公共交通に対して積極的な考えはないことがヒアリング結果から明らかとなった。

一方でアンケート結果からも需要は高く、実証運行により検証することが必要と考えられるが、貸切運送事業者等の活用によって、実現性を模索する必要がある。

ただし、実証運行の結果を踏まえながら、既存交通の経路の変更や運賃助成などにシフトする方向性も考えられ、多様な可能性や近年の制度の変化も確認しながら進める必要がある。

##### ③広域連携による移動支援策の検討

登別市と白老町が連携して、移動支援策に取り組むことにより、生活交通と観光交通の都市間移動を実現し、これにより地域経済を一体的に活性化する方向性を検討することが可能となる。

また、新生・美園・若草、栄・鷺別等では、室蘭市との強い結びつきがあり、アンケート結果から

も通院面での室蘭市内への流動が明らかになっており、生活圏としてのより円滑な移動支援策について、JRとバスによるアクセス交通の検討が必要と考えられる。

## (2) JR登別駅周辺における生活交通・観光交通の融合による効果的な運行計画の検討

### 1) 生活交通・観光交通の融合に係る課題

JR登別駅周辺地域の登別本町や常盤・柏木地区などについては路線バスが運行していない地域があり、新たな生活交通の支援体系が必要であるものの、交通事業者にとっては観光需要の高い地域であり、需要の少ない生活交通をカバーする余力はない状況である。

そのため、前述の通り多様な事業者による可能性を模索する必要はあるものの、ヒアリングの結果から新たな公共交通の観光施設への立ち寄りには既存交通との重複が発生することから実現性が低いと考えられる。

また、地域住民と観光客が小型の乗合タクシー等で生活関連施設と観光地を周遊したり、予約したりすることも現実的には難しいと考えられる。

### 2) 生活交通観光交通に係る方向性

アイヌ関連施設である銀のしずく記念館については、地域住民も観光客も一定の需要のある施設であり、駅から銀のしずく記念館までの新たな公共交通の運行は有効と考えられる。

そのため、観光施設は既存交通による移動、アイヌ関連施設と生活関連施設は新たな公共交通による運行によってすみ分ける方法が考えられる。

## (3) 登別市情報発信拠点施設を中心とした新しい公共交通網の検討

### 1) JR登別駅周辺を拠点として公共交通網の検討

- ・インフォメーション機能の強化  
⇒乗り継ぎ案内の充実
- ・乗り継ぎ割引の検討
- ・モード間連携による周遊パスの導入
- ・レンタサイクルによる周遊観光の促進
- ・Ma a Sの導入によるシームレスな交通体系の構築  
⇒すべてのモビリティのキャッシュレス化の連携  
⇒事前決済サービスの導入  
⇒モード間の乗り継ぎ案内の構築

### 2) 交通結節点における情報発信の機能強化

バス交通の移動状況を整理した結果、新川・中央・富士では地域内移動が比較的多く行われているものの、その他は地区間を結ぶ移動としてバス路線が活用されている状況であり、これらの拠点として交通結節点機能の強化による効率的な公共交通の支援が考えられる。